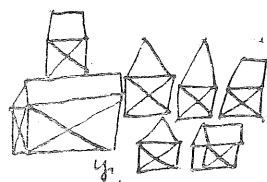


昭和二十八年の新春を迎えて

——金屬鑛業界は量より質の合理化へ——

日本鑛業協會

會長 羽 仁 路 之



客年四月講和條約の發效により七年有餘の占領管理下から解放されて氣分的にも明るい新春を迎えることができた。

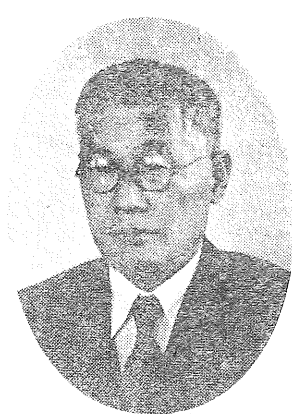
さて獨立してみると隣接に強大なソ連、中共の陸營に四ツの島は押し包まれている。いたずらに屠蘇の香に酔つてもいられない。

新生日本が眞に獨立するためには、まず國力を涵養充實しなければならない。國力の涵養には、民族精神の昂揚と自立經濟力を確立することが先決となる。この小さな四ツの島に八千万の同胞が蝟集して生きて行かなければならない。第一食糧についてみても國內産米を六千万石としても敗戦により増加した二千万人分は不足である。

占領中は産業も國民も米國の對日援助資金で息をついてきた。獨立によりこの對日援助資金は打ち切られた。

偶々朝鮮動亂以來の特需により、わが國産業は豫想以上に復興のテムボを早め企業は伸展した。しかるに、客年當初より米國をはじめ歐洲諸國の軍擴テムボの遅延により世界的に景氣は停滞し物價は下落を辿りつゝある。この潮流は今年もなお續くものと思われる。今後は需要減退と物價下降は一層顯著になるのではないかとさえ憂慮される。

わが金屬鑛業も、直接間接に世界の軍擴や特需の恩恵に浴し一時、金へん景氣として羨望されたのはまつたくの僥倖であつた。この一年纖維、ゴム、皮革等の打撃は大きく繰短のやむなき事態に立ちいたつた。金屬商品はその程でないが、朝鮮動亂後のピークからみれば鉛、亜鉛の市價は約五割近くも下落している。新年度に僅かに期待し得るものは兵器關係を中心とした新特需による需要である。



これまでの特需の發注は浮動が多くこれに餘り大きな期待を有つことは危険である。

日本鑛業協會誌（第六卷第一號）

新年號目次

（卷頭言）

★昭和二十八年の新春を迎えて……羽仁路之……一

★米國新稅法の下における鑛山探鑛費及び開發費控除について西川義朗……三

（協會賞論文）

★粉鑛處理完全廢止による全粉鑛直接裝入熔鑛爐製鍊に就て……伊藤寿夫……九

（座談會）

★新春放談……（出席者）管、是永、三毛、久留島、羽仁、國原……三

（解説）

★新春隨筆……田中外次、佐藤久喜、新海英一、田中次郎……三

……岡部權男、久留島秀三郎……三

（解 說）

★米國軍擴計畫のテンボの遅延について……三

★ケーニツヒスボーン（鑿岩繰粉清淨器）……完

（鈹山の科学管理）

★ワンシフト・ワンラウンド法の一考察……四

▽月間の動き……三〇

▽協會だより……三〇

▽ニュース……三〇

▽資 料……三七

▽資 料……三七

▽資 料……三七

【表紙寫眞】フリユオ・ソリッド焙燒炉を採用した同和鈹業小坂鈹山濕式製鍊工場